

日本産業衛生学会 関東地方会ニュース

(題字 高田 昴 筆)

発行所／日本産業衛生学会関東地方会事務局・〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8 (<http://jsohkant.umin.jp/>)

東京慈恵会医科大学医学部環境保健医学講座・TEL(03)3433-1111 内 2266・FAX(03)5472-7526・発行責任者／柳澤裕之



懇親会にて 柳澤酒造「桂川」鏡開き

(左から)栗原慈恵大学理事長、川上産衛学会新理事長、圓藤産衛学会前理事長、柳澤学会長



ご参加有難うございました！

第 90 回日本産業衛生学会を開催して

柳澤 裕之 (日本産業衛生学会理事・関東地方会長・慈恵医大教授)

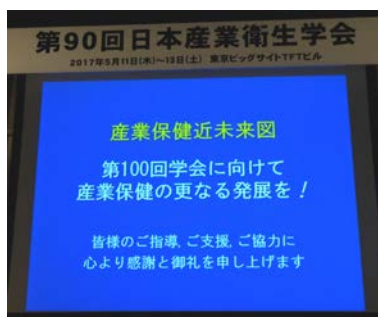


青葉が繁る好季節の中、
2017年5月11日(木)～13日
(土)の3日間、東京ビッグサイ
トTFTビルにおいて第90回日
本産業衛生学会を開催いた

しました。第90回学会は、メインテーマを「産業保健近未来図」と題して、第100回学会に向けた今後10年間に取り組むべき課題や産業保健が向かうべき道筋について取り上げました。本学会としては、今回初めて、厚生労働省に後援として参画いただき、プログラムには、厚生労働省が掲げる重要課題から、①近未来のがん予防対策、②産業化学物質対策の強化、③ストレスチェック制度を含む産業精神保健対策の強化、④治療と就労の両立支援の確立、⑤労働安全衛生法に基づく定期健康診断の見直し、⑥これからの産業医の在り方、⑦過労死・自殺予防対策に関して、特別講演、教育講演、シンポジウム、緊急企画シンポジウム、公募シンポジウム、フォーラムで、計50プログラムが盛り込

まれました。これらセッションについては、日本医師会認定産業医研修(34.5単位)、日本産業衛生学会産業保健看護専門家研修(63単位)、日本歯科医師会生涯研修(7単位)が認められ、学会員・非学会員を問わず、さまざまな職種の方が参加され、熱心に聴講する姿が見られました。また、口頭発表、ポスター発表は500題を超え、熱心な討論や意見交換が行われました。参加者は最終的に5,000名を超え、かつてない大記録となり、関東地方会の企画力、アピール力、実行力、運営力の強さを実感いたしました。懇親会では、群馬の銘酒「桂川」の鏡開き、東京慈恵会医科大学ジャズ研究会の演奏が大好評でした。第90回学会をこのように盛会裏に終えることができたのは、ひとえに関係する皆様から頂戴したご指導、ご支援、ご協力のお陰です。企画運営委員会の諸先生方、後援・協賛して下さった団体・企業、運営事務局および環境保健医学講座スタッフに対し、この場を借りて、心より厚く御礼を申し上げます。

第90回日本産業衛生学会報告



統括委員長を担当して



須賀万智(慈恵医大)

第90回という節目の学会において、統括委員長という大役を務めることになり、さまざま不安を感じながらのスタートであったが、開けてみれば、参加者が5,000名を

超える、これまでにない大盛会となった。これもひとえに、企画運営委員会の先生方のご尽力によるものである。

企画運営委員会は、関東地方会の理事・幹事を中心として、企画実行部門19名、プログラム部門8名、運営部門30名、財務部門4名から構成され、企画実行部門には、セッションの企画と座長を、プログラム部門には、プログラムの作成と優秀演題の選考を、運営部門には、一般演題の査読と学会会期中の運営を担当していただいた。おいそがしい毎日を送りながらの対応となり、きつとずいぶんご無理を聞いていただいたにちがいないが、それぞれ責任を果たして任務を全うしてくださったおかげで、すべて滞りなく進められ、無事に盛会裏に終えることができた。

私個人としては、学会開催が決定してから、まさに怒濤のような2年間であった。来る日も、来る日も、学会、学会・・・という状況にぶうたれたり、プチ切れたことも数知れないが、とても充実した毎日であったし、心に残る貴重な経験をさせていただいたと感じている。

最後に、企画運営委員会の先生方、後援・協賛してくださった団体・企業、運営担当の株式会社プロコムインターナショナルおよび講座スタッフに対して、御礼を申しあげるとともに、会場に足を運んでくださった参加者の皆様に改めて感謝を申しあげたい。

プログラム部門長を担当して



照屋浩司(杏林大)

第90回日本産業衛生学会は、参加者およそ5,000名を数える盛会で無事に終了した。プログラム部門の担当者として心より御礼申し上げる。

「産業保健近未来図」をメインテーマとして掲げ、柳澤裕之学会長、須賀万智統括委員長の強力なリーダーシップの下、澁谷智明、武林 亨、立道昌幸、田中 茂(準備期間途中で九州地方会に転出された宮内博幸の後任として)、谷山佳津子、能川和浩、古川晴子の各先生および筆者と、事務局の吉岡 亘からなるプログラム部門において、企画の調整、取りまとめを行わせていただいた(敬称略)。

日本産業衛生学会としては初めて厚生労働省に後援としてご参画いただけたこともあり、プログラムの内容としては、厚生労働省が掲げる重要課題から、①近未来のがん予防対策、②産業化学物質対策の強化、③ストレスチェック制度を含む産業精神保健対策の強化、④治療と就労の両立支援の確立、⑤労働安全衛生法に基づく定期健康診断の見直し、⑥これからの産業医の在り方、⑦過労死・自殺予防対策、などに関するテーマがまず採択された。これらに、今日的なテーマからなる教育講演、部会・研究会・有志などからご応募いただいた公募シンポジウムとフォーラムなどが加わり、基調講演:1題、特別講演:1題、教育講演:10題、シンポジウム:7題、緊急企画シンポジウム:1題、公募シンポジウム:18題、フォーラム:13題などの特別プログラムと、一般演題:506題(口演発表:120題、ポスター発表:386題、一部誌上発表や演題取り下げを含む)からなるプログラムが出来上がった。

教育講演やシンポジウムの演者として厚生労働省

の担当官12名にご登壇いただいたこと、日本医師会認定産業医制度(更新13.5単位、専門18単位、実地3単位)、日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度(63単位)、日本歯科医師会生涯研修制度(7単位)の各認定制度の単位取得が可能であったこと、なども今回のプログラムで特筆すべきことであったと考える。第84回日本産業衛生学会時に当時の武林 亨プログラム委員長のご英断によって導入された一般発表演題の査読システムはその後すっかり定着し、本学会でも取り入れたが、査読者2名の得点に当日の座長の評価を加えて、口演発表、ポスター発表として発表された全ての演題の中から、セッションごとに優秀口演賞と優秀ポスター賞が選考され、表彰状と副賞が授与されたことも記しておきたい(9頁参照)。

メイン会場となる第1会場の定員が1,000名、第2会場が500名、第3会場300名、別棟で中規模以上の企画に使用した第4～第10会場も130名～290名の定員と、十二分なキャパシティと考えて準備させていただき、ガラガラだと演者に申し訳が立たないなというのが事前の懸念事項であったのだが、どの会場、どの企画とも多くの立ち見が出るような状況であった。途中で椅子の追加等も行ったが間に合わなかったとのことである。熱心にご参加くださった皆様に感謝申し上げるとともに、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げたい。

末筆ながら、一般演題の査読や座長をはじめ、さまざまな企画にご協力いただいた関東地方会の幹事の先生方、会員の先生方に改めて感謝申し上げます。

運営部門長を担当して



与五沢真吾(慈恵医大)

運営部門は関東地方会所属の大学や企業の先生方から構成され、2～3名ずつ各会場をご担当いただき、会場係として各セッションの進行

を補佐していただいた。

今回の学会には、予想以上に多くの方々にご参加いただいた。各会場と受付のマニュアルは入念に改訂を重ねたものの、現場に臨んでから不備に気が付くことも多く、様々な対応に追われた。行列の方向や動線の確保などにも困難があり、特に1日目の当日申込、抄録集の配布、ランチョンセミナーの整理券配布などでは大変ご迷惑をおかけしてしまった。案内パネルを増やし行列整理の増員をするなど、できる範囲で精一杯対処させていただいたつもりではあるが、力不足を痛感させられた。ご不便を感じた参加者の方が多くいらっしゃったのではと案じている。この場をお借りして、心からお詫び申し上げたい。

そのような中であって、無事閉会を迎えられたのは、運営部門の皆様の献身と、各所で柔軟かつ臨機応変にご対処いただいたおかげである。スケジュールの都合で学会開催日までには一堂に会する機会を持つことが叶わず、ご事情やご要望を十二分に反映できぬまま担当をお願いせざるを得なかった。非常に長い拘束時間と会場の混雑ぶりに辟易されていた委員もいらっしゃったと思うが、文句ひとつ言わず粛々と任を全うされ、頼りない部門長にねぎらいの言葉までかけていただいた。本当に頭の下がる思いで一杯である。

貴重な時間を割いてご尽力いただいた先生方、運営事務局および全てのご協力いただいた方々に、心より厚く御礼申し上げます。



会場は大盛況でした



ランチョンセミナー整理券配布所の大行列



受付風景

【第90回日本産業衛生学会 企画運営組織】

(敬称略、五十音順、* 部門長、所属は委嘱時)

学会長

柳澤 裕之(東京慈恵医大・医・環境保健医学)

統括委員長

須賀 万智(東京慈恵医大・医・環境保健医学)

企画運営委員会

企画実行部門

五十嵐 千代(東京工科大・医療保健・看護学科)

大久保 靖司(東京大・環境安全本部)

大前 和幸(慶應義塾大・医・衛生学公衆衛生学)

加藤 元(日本アイ・ビー・エム健康保険組合 予防歯科)

川上 憲人(東京大院・精神保健学)

五味 秀穂(航空医学研究センター)

品田 佳世子(東京医歯大・歯・口腔保健学科・口腔疾患予防学)

下光 輝一(健康・体力づくり事業財団)

*須賀 万智(東京慈恵医大・医・環境保健医学)

諏訪園 靖(千葉大院・医学研究院・環境労働衛生学)

田中 茂(十文字学園女子大院・人間生活学)

角田 透(杏林大・医・衛生学公衆衛生学)

中野 愛子(日立製作所 京浜地区産業医療統括センタ)

橋本 雄幸(東京都医師会)

福本 正勝(長岡福祉協会 首都圏事業部 福祉プラザさくら川)

藤田 雄三(藤田労働衛生コンサルタント事務所)

松本 吉郎(日本医師会)

宮本 俊明(新日鐵住金 君津製鐵所 安全環境防災部安全健康室)

諸岡 伸裕(茨城県医師会)

プログラム部門

澁谷 智明(日立製作所 京浜地区産業医療統括センタ)

武林 亨(慶應義塾大・医・衛生学公衆衛生学)

立道 昌幸(東海大・医・公衆衛生学)

田中 茂(十文字学園女子大院・人間生活学)

谷山 佳津子(朝日新聞東京本社 管理本部労務セクション)

*照屋 浩司(杏林大・保健・公衆衛生学)

能川 和浩(千葉大院・医学研究院・環境労働衛生学)

古川 晴子(東京海上日動火災保険 人事企画部健康管理室)

運営部門

安達 修一(相模女子大・栄養科学・管理栄養学科・公衆衛生学)

稲垣 弘文(日本医大・衛生学公衆衛生学)

及川 孝光(こころとからだの元氣プラザ)

大越 裕文(渡航医学センター 西新橋クリニック)

大橋 力(東京海上日動火災保険 人事企画部健康管理室)

小田切 優子(東京医大・公衆衛生学)

神奈川 芳行(JR東日本 健康推進センター)

香山 不二雄(自治医大・医・環境予防医学)

北村 文彦(順天堂大・医・衛生学)

木戸 尊将(東京慈恵医大・医・環境保健医学)

小島原 典子(東京女子医大・医・衛生学公衆衛生学第II)

小橋 元(獨協医大・医・公衆衛生学)

小峰 慎吾(NTT東日本 健康管理センタ)

小山 洋(群馬大院・医学系研究科・公衆衛生学)

内匠 正太(鹿児島女子短大・生活科学)

角田 正史(北里大・医・衛生学)

豊川 智之(東京大院・医学系研究科・公衆衛生学)

中村 憲司(労働安全衛生総合研究所)

西脇 祐司(東邦大・医・衛生学)

野寺 誠(埼玉医大・保健医療)

原 邦夫(帝京大院・公衆衛生学)

人見 敏明(聖マリアンナ医大・予防医学・環境保健)

堀口 誠(竹中工務店 診療室)

松崎 一葉(筑波大院・医学医療系)

森 智恵子(日立製作所 京浜地区産業医療統括センタ)

山野 優子(昭和大・医・衛生学)

山本 健也(東京大・環境安全本部)

*与五沢 真吾(東京慈恵医大・医・環境保健医学)

吉岡 早戸(国立病院機構 災害医療センター)

吉岡 亘(東京慈恵医大・医・環境保健医学)

財務部門

大越 裕文(渡航医学センター 西新橋クリニック)

*下光 輝一(健康・体力づくり事業財団)

藤田 雄三(藤田労働衛生コンサルタント事務所)

山野 優子(昭和大・医・衛生学)



関東地方会企画プログラム

「科学的根拠に基づく産業保健における復職ガイダンス」の公聴会をシンポジウムとして開催して



小島原典子(東京女子医大)

最初に、復職ガイダンスの公聴会を公募シンポジウムとして開催し、直接ご意見をいただく機会を得たことに感謝申し上げます。日本産業衛生学会関東地方

会4部会から公募により20数名からなる復職ガイダンス策定委員会を構成し、産業保健分野としては初めてGRADEシステムを採用したガイダンス作成を進めてきた。今回は、産業医部会の福本正勝先生と産業衛生技術部会の對木博一先生に座長をお務めいただき、総論から①作成方法(筆者)、②休職期間(谷山佳津子先生)、③復職判定の指標(吉川悦子先生)、復職ガイダンスで提示した4つの推奨から④休職中の介入(原野 悟先生)、⑤復職時の就業上の配慮(能川和浩先生)の計5つの発表を行った。

休職中の介入については、リハビリテーションなど

の職場復帰プログラムが「弱い推奨」とされた。今回の採用論文はすべて制度が異なる海外の研究であり、復職後の再休職率、効率的なリワークの期間・内容などについて、我が国でのエビデンスが求められる。復職時の就業上の配慮では、短時間勤務などの復職時の配慮が「弱い推奨」とされ、復職時の支援にかかるコストに対して利益が上回る可能性が示唆された。



平成26年「近未来の産業衛生に係る研究課題」として、復職ガイダンスの作成を提案してから、多くの人のご協力をいただいた。公募したレビューエッセイの大半についてエビデンスが見つからず、フロアからのご指摘にもあった通り我が国のエビデンスの少なさを再認識する作業となったことは否めない。とはいえ、システムティックレビューが必要だという認識を共有し、我が国で求められている研究課題を明確にできたことは有意義であったと考えられ、本ガイダンスが、科学的根拠に基づいた産業保健活動実践のスタートラインとなることを期待している。復職ガイダンス全文は関東地方会HPにて公開中である。

(http://jsokant.umin.jp/misc/3HP/guidance_summary.pdf)



後列左から對木先生、福本先生、能川先生
前列左から筆者、谷山先生、原野先生、吉川先生

多職種連携若手の会のセッションを担当して



能川和浩(千葉大)

日本産業衛生学会関東地方会多職種連携若手の会(以下若手の会)は、「ストレスチェック制度を成功させるために～多職種

連携による快適職場の形成」と題しシンポジウムを開催した。第2会場(TFTホール500)という若手の会にとっては大きな会場を割り振っていただいたが、立ち見ができるほど多くの方にご参加いただいたことに感謝申し上げます。

若手の会の活動の中で、多職種連携の強みの一つは、職場環境の改善と快適職場の形成に対して多視点からアプローチできることである。ストレスチェック制度による高ストレス職場の抽出と、多職種連携による原因究明と改善、そして快適職場を形成することがストレスチェック制度を成功させる鍵になると考えている。本シンポジウムは、多職種連携の強みである快適職場の形成を一次予防としてのストレスチェック制度に活かすことを企画意図とした。

シンポジウムの内容としては、産業保健に携わる各職種から、それぞれの専門性を明らかにし、事例も交えてストレスチェック制度への取り組みや対策を発表していただいた。産業医の立場として西植植規秀先生(にしんのうえ産業医事務所)、保健師の立場として長谷川 梢先生(日立製作所)、作業環境測定士の立場として飯田裕貴子先生(産業保健協会)、臨床心理士の立場として小林由佳先生(本田技研工業)、管理栄養士の立場として鶴田浩子先生(東京都予防医学協会)、国が進める対策と制度について武田康久先生(厚生労働省)にご講演いただいた。発表とディスカッションを通して明らかになったのが、職場環境改善の鍵は、「従業員から引き出す」「従業員を巻き込む」ということである。若手の会では今後も、現場でも活用できる参加型グループワークを通して、産業保健活動の向上に寄与していきたいと考えている。



シンポジウム会場風景



基調講演「産業保健近未来図」柳澤裕之地方会長



特別講演「働く世代の新しいがん予防対策」中釜 斉氏



教育講演 1



教育講演 2



教育講演 3



教育講演 4



教育講演 5



教育講演 6



教育講演 7



教育講演 8



教育講演 9



教育講演 10



シンポジウム 1



シンポジウム 2



シンポジウム 3



シンポジウム 4



シンポジウム 5



シンポジウム 6



シンポジウム 7



公募シンポジウム 1





公募シンポジウム 16



公募シンポジウム 17



公募シンポジウム 18



緊急企画シンポジウム「過労自殺をなくすために」



総会



学会受賞講演 熊谷信二氏



日本産業衛生学会 表彰者の皆様



奨励賞受賞講演 富岡公子氏・遠田和彦氏



ポスター会場



機器展示ブース



来年は熊本です！



優秀演題賞の発表

WiFiが御利用になれます。
SSID: sanei2017
Password: sanei2017



救命講習



懇親会



優秀演題賞 受賞者一覧

演題番号	発表形式	セッション名	氏名	演題名
O1-05	一般演題1	メンタルヘルス1	足立 英彦	管理監督者教育を通じて部下のワーク・エンゲイジメントを高めることができるか
O2-02	一般演題2	粉じん1	田中 昭代	酸化インジウム皮下および気管内投与による臓器インジウム濃度の比較
O3-02	一般演題3	健康増進1	道下 竜馬	職場単位で行うアクティブレストが労働者の労働生産性に及ぼす効果
O4-01	一般演題4	産業看護	山本 千代	産業看護職の研究実施に関連する要因
O4-05	一般演題4	産業看護	中谷 淳子	初任期の産業看護職に必要なコンピテンシーの明確化
O5-01	一般演題5	メンタルヘルス2	今村 幸太郎	時間選好の違いはインターネット認知行動療法 (iCBT) の抑うつ症状改善に影響するか？
O5-02	一般演題5	メンタルヘルス2	原田 暢善	フリッカー値および自覚的疲労指標の経時的変動性とZung式うつ自己評価尺度の関連
O6-03	一般演題6	粉じん2、病者就業	森本 泰夫	気管内投与試験が吸入毒性評価スクリーニング試験として有用性
O7-05	一般演題7	健康増進2	姜 英	飲食店の全席禁煙化と分煙化による営業収入の変化
O8-02	一般演題8	口腔保健	澁谷 智明	某企業における歯科レセプトデータと生活習慣病との関係
O9-02	一般演題9	メンタルヘルス3	浅井 裕美	マネジメントコンピテンシーに基づいた管理監督者の復職対応研修の効果：比較対照試験
O10-02	一般演題10	化学的因子1	須田 恵	1、2-ジクロロプロパン曝露時のマウス血液・肝臓・胆汁中の中間代謝物濃度の比較
O11-04	一般演題11	健康増進3	武藤 剛	疾病と就業の両立支援に向けた、主治医連携に関する産業界の意識と行動に寄与する因子
O12-05	一般演題12	過重労働	吉川 徹	わが国における2010～2015年の脳・心臓疾患の労災認定事案のデータベース開発と分析
O13-02	一般演題13	メンタルヘルス4	津野 陽子	健康経営の枠組みに基づく成人期の注意欠如多動症と生産性および精神健康の関連
O13-03	一般演題13	メンタルヘルス4	関屋 裕希	総合健康リスク値が高い職場は、高ストレス者の割合が多いのか
O14-03	一般演題14	化学的因子2	石山 千恵美	大学研究室のための化学物質の包括的なリスクアセスメント（その2：システムの実証）
O15-02	一般演題15	健康増進4	山瀬 一	肥満有所見率の高い職場は非肥満者において体重増加リスクとなるか？
O15-05	一般演題15	健康増進4	蘇 リナ	労働者の座位行動が全身持久性体力に及ぼす影響
O16-04	一般演題16	生活習慣	中村 美詠子	Health Locus of Controlと喫煙との関連
O17-02	一般演題17	メンタルヘルス5	真船 浩介	組織資源と職業性ストレスによる職場の類型化と精神的健康及び活力との関連の検討
O18-04	一般演題18	物理的因子	望月 徹	高所大深度ヘリウム混合ガス潜水作業における減圧症リスクの評価
O19-02	一般演題19	健康診断1	大江 千恵子	ソーシャルマーケティングの手法を活用した特定健診未受診者への受診勧奨の効果
O20-05	一般演題20	運動器障害1	森岡 郁晴	VDT作業時間管理アプリケーションによる時間管理が身体的不調に及ぼす影響
O21-01	一般演題21	メンタルヘルス6	水谷 明男	ストレスチェック後医師面接希望しない高ストレス者に対する、非専業産業界の対応
O22-01	一般演題22	中小企業、感染症	小和田 曉子	結核ハイリスク職場の結核検診におけるインターフェロング遊離試験の費用効果分析
O23-04	一般演題23	健康診断2	鐘江 宏	日本人職域集団における高血圧発症率と血圧区分の検討
O24-04	一般演題24	運動器障害2、職場改善	立道 昌幸	近視眼を有するVDT機器の長時間使用者は緑内障発症リスクが高い
P1-007	ポスター	健康管理1	高木 絵里子	健康経営・コラボヘルス研究 第9報 生活習慣と労働機能障害に関する横断的調査
P1-017	ポスター	健康管理2	横山 麻衣	身体疾患を有する就労者の仕事と治療に関する患者質問紙調査
P1-025	ポスター	健康管理3	楠本 朗	糖尿病の合併症としての歯周病の実態ならびに産業保健スタッフの対応について
P1-032	ポスター	健康管理4	石川 美希	生活習慣病予備群への宿泊型新保健指導の効果～「心身健康道場」を活用した事例～
P1-046	ポスター	生活習慣・口腔保健1	巽 あさみ	若年女性労働者の不眠に対する包括的睡眠改善プログラムの効果
P1-053	ポスター	雇用・職場改善・感染症1	渡辺 裕晃	自治体職場におけるOSHMS定着と安全衛生指標や活動への影響評価 第2・3報
P1-062	ポスター	メンタルヘルス・過重労働1	小笠原 彩菜	メンタルヘルス不調者の事例性に着目した「職場での困りごと整理シート」の開発
P1-070	ポスター	メンタルヘルス・過重労働2	池田 大樹	勤務間インターバルの確保はサイコロジカル・ディタッチメントを促進する
P1-074	ポスター	メンタルヘルス・過重労働2	藤野 善久	精神科外来受診中のうつ病労働者における労働機能障害に関する検討
P1-085	ポスター	メンタルヘルス・過重労働3	野見山 哲生	自衛隊職場におけるOSHMS定着と安全衛生指標や活動への影響評価（第3報）
P1-091	ポスター	メンタルヘルス・過重労働4	菊池 宏幸	高ストレス者判定方法の比較～ストレスチェック7万人の結果から（第1報）～
P1-092	ポスター	メンタルヘルス・過重労働4	荒幡 絵美	ストレスプロフィールの職種別比較～ストレスチェック7万人の結果から（第2報）～
P1-102	ポスター	産業看護・その他1	錦戸 典子	保健事業展開における産業保健師の専門能力の発揮状況（第1報）キャリア段階別分析
P1-111	ポスター	物理的・化学的因子・粉じん1	齊藤 宏之	ミストファンによるWBGT値低減効果の実験的検討
P1-117	ポスター	物理的・化学的因子・粉じん2	矢嶋 伊知朗	ヒ素曝露によって引き起こされる黒皮症のモデルマウス樹立とその解析
P1-127	ポスター	物理的・化学的因子・粉じん3	平工 雄介	インジウム曝露ラット肺における炎症関連分子の解析
P2-003	ポスター	健康管理5	大塚 俊昭	血圧遠隔モニタリングシステムを用いた職場血圧の評価
P2-007	ポスター	健康管理5	今川 かおる	脳・心血管イベントゼロに向けた血圧測定ステディの健康管理への活用（第1報）
P2-015	ポスター	健康管理6	高橋 大悟	データヘルス計画に基づく生活習慣病重症化予防のための保健事業～治療薬の中断状況～
P2-022	ポスター	健康管理7	岡部 花枝	分散事業場の健診事後措置【第2報】糖代謝異常を対象とした脳心血管疾患の予防
P2-029	ポスター	健康管理7	安藤 肇	労働衛生機関実施の一般定期健康診断における問診票項目に関する調査
P2-034	ポスター	運動器障害1	白坂 泰樹	転倒防止を目的とした体力測定 第1報 ～転倒と体力との関連～
P2-041	ポスター	生活習慣・口腔保健2	柿沼 歩	IT技術を活用した保健指導システムの開発 ～第2報～
P2-059	ポスター	雇用・職場改善・感染症2	鶴ヶ野 しのぶ	大学非正規教員の健康 ―非常勤講師健康調査から―
P2-066	ポスター	メンタルヘルス・過重労働5	空閑 玄明	ストレスチェックにおける組織診断および改善活動に寄与する働き方の検討
P2-074	ポスター	メンタルヘルス・過重労働6	黒田 玲子	男性日勤労働者において、社会的時差ボケはChronotypeと独立して抑うつに関連する
P2-078	ポスター	メンタルヘルス・過重労働7	井上 彰臣	精神的な不調に対する職の不安定性と役割曖昧さの相乗効果
P2-092	ポスター	メンタルヘルス・過重労働8	島田 恭子	未就学児を持つ共働き夫婦におけるワーク・ライフ・バランスの精神的健康影響
P2-099	ポスター	産業看護・その他2	中野 修治	専属産業界の事業場における在職死亡第19報(QQ継続調査2011-2015年、死因と健診結果)
P2-107	ポスター	物理的・化学的因子・粉じん4	和泉 弘人	ナノ材料による肺の有害性を遺伝子発現量で早期に評価する方法の開発
P2-117	ポスター	物理的・化学的因子・粉じん5	佐野 圭亮	リスク管理のためのCHEMCADによる2成分系混合有機溶剤の気液平衡関係の活用
P2-128	ポスター	物理的・化学的因子・粉じん6	皆本 景子	歯科医療従事者の業務に関連した結膜炎、鼻炎、喘息症状
P3-006	ポスター	健康管理8	齋藤 宏子	言わないと始まらない職場での母性健康管理―職場への早期妊娠報告の要因を探る―
P3-015	ポスター	健康管理9	永尾 保	両立支援に関する主治医視点での就業復帰に考慮すべき問題点に対する実態調査
P3-021	ポスター	健康管理10	小野 郁美	女性看護師における自覚症状の実態
P3-023	ポスター	健康管理10	松浦 祐介	職場検診における子宮頸がん検診の実態調査 ―現状と課題―
P3-035	ポスター	運動器障害2	埴田 和史	腰痛・頸肩腕障害検診における自覚症状と機能検査結果の検討
P3-045	ポスター	生活習慣・口腔保健3	内藤 美生	新聞印刷工場における口腔保健介入調査
P3-053	ポスター	雇用・職場改善・感染症3	吉田 麻美	中高年看護師のプレゼンティーズムと仕事のストレス―や行動特性との関連
P3-059	ポスター	メンタルヘルス・過重労働9	堤 明純	ストレスチェックにおける高ストレス者抽出基準の特性についての検討
P3-073	ポスター	メンタルヘルス・過重労働10	磯田 美志	S E 社員の抑うつハイリスク群に関連する職場のストレス要因
P3-079	ポスター	メンタルヘルス・過重労働11	森 浩平	ワーク・エンゲイジメントに影響を与える仕事の資源に関する調査研究
P3-091	ポスター	産業看護・その他3	阿南 伴美	熊本地震における産業保健対応～産業保健スタッフ向け危機対応マニュアルを活用して～
P3-101	ポスター	産業看護・その他4	東本 恵	A 事業場における短時間保健師面談導入の成果
P3-108	ポスター	物理的・化学的因子・粉じん7	西田 典充	有機溶剤ばく露と肝機能検査値の関係探索のためのパイロットスタディ
P3-117	ポスター	物理的・化学的因子・粉じん8	保利 一	光触媒溶射シリカゲルによるメタノールの吸着・分解特性

【関東地方会例会プログラム一覧】

・第276回例会

当番幹事：中野愛子（日立製作所、関東産業看護部会長）

開催期間：2017年2月18日（土）

会場：東京有明医療大学 3F 大講義室

【プログラム】

シニア労働者活用における産業保健の課題と展望

座長：古川晴子（東京海上日動火災保険）、吉川悦子（東京有明医療大）

1:「高齢労働社会への産業保健における課題と対策」
酒井一博（大原記念労働科学研究所）

2:「高齢男性の退職移行期における健康への意識・ヘルスプロモーション」 掛本知里（東京有明医療大）

3:「65歳を超えても安全で健康的に働ける職場づくりを目指して-高齢労働者活用に関する経営戦略」
武井 宏（ボルテックスセイゲン）

4:「高齢労働者活用における産業保健スタッフによる支援」 帆苅なおみ（サンデン・ビジネスエキスパート）

5:パネルディスカッション

・第277回例会（第90回日本産業衛生学会 シンポジウム5との合同開催）

開催期間：2017年5月12日（金）

会場：東京ビッグサイトTFTビル東館

【プログラム】

交替制勤務者の健康支援

座長：諏訪園 靖（千葉大院）、照屋浩司（杏林大）

1:「交替制勤務者の健康管理の実際～睡眠衛生教育からがん検診まで」 加藤憲忠（富士電機 健康管理センター）

2:「交替制勤務者の健診事後措置における産業看護職の役割」 成田恵子（日立製作所日立健康管理センタ）

3:「交替制勤務者の労務管理と労働衛生管理に対応する『衛生管理者・人事部門・職場管理職』の立場から」 對木博一（アール）

4:「夜間勤務を含むシフト勤務者と日中勤務者での口腔内の状態及び口腔保健行動の比較」 石塚洋一（東京歯科大・衛生学）

5:「交替性勤務者の勤務体制を考慮した食生活支援と生活習慣病予防」 福村智恵（大阪市大院・生活科学）

第 276 回例会報告



中野愛子（日立製作所）

第276回例会は、2017年2月18日（土）に東京有明医療大学大講義室にて開催され、122名にご参

加いただいた。テーマは「シニア労働者活用における産業保健の課題と展望」と題し、計4名の先生方にご講演いただいた。

前半は、高齢労働者のヘルスプロモーションといった視点だけではなく、経営戦略として高齢労働者を活用し、様々な対策を講じて安全な職場環境形成を目指している企業の実践報告、高齢労働者の特性をふまえたきめ細やかな支援を行っている産業保健スタッフの実践など、幅広い視点からの報告を含め、先生方から現状や課題について話題提供をいただいた。酒井一博先生からは、高齢労働者の雇用についての諸問題とそれを見据えた健康支援などの知見を、掛本知里先生からは、高齢男性のヘルスプロモーションについての研究成果を、武井宏先生からは、経営者のお立場から高齢労働者の雇用促進とそれを支える会社の仕組みや先進的な取り組み事例を、帆苅なおみ先生からは、自社のシニア再雇用時の健康支援に対する事例を、それぞれご講演いただいた。

後半は、研究成果や具体的な良好実践事例の共有を通して、効果的な支援のあり方や解決すべき課題について、ご講演いただいた4名の先生方によるパネルディスカッションを開催した。関心が高いテーマであった為、会場から多くのご質問をいただき、活発な意見交換ができた。

開催にあたり、ご支援いただいた皆様に感謝申し上げる。また、今回ご支援・ご協力をいただいた関東産業看護部会、関東産業看護部会幹事にもこの場を借りて深謝する。



第 277 回例会報告



与五沢真吾 (慈恵医大)

第277回例会は第90回産衛学会の中でシンポジウム5「交替制勤務者の健康支援」を兼ねて開催された。

学会の公募シンポジウムへの産業栄養研究会からのご提案をベースに、企画実行部門の諏訪園 靖先生とプログラム部門長の照屋浩司先生により、関東地方会4部会および産業栄養研究会の合同シンポジウムとして企画いただいた。定員290名の会場に372名もの方々にご参加下さった。

加藤先生には睡眠衛生教育として、仮眠のコツや睡眠慣性、アンカー睡眠、カフェインの効能や、高照度下のメラトニン分泌抑制を防ぐための赤いバイザーキャップの有効性など、興味深い事例をご紹介いただいた。成田先生からは「夜勤前健診」という独自システムが健康障害抑制の一助になっている事例が紹介された。對木先生からは交替制勤務者の管理を行う上で産業医、衛生管理者、人事労務部門、職場管理者が果たすべきそれぞれの役割が述べられた。石塚先生からは、夜勤を含むシフト勤務者では、う蝕など未処置歯の放置が多い、日に2回以上の歯磨きをする者が少ない、等のデータが紹介され、歯科保健指導の必要性が説かれた。福村先生からは交替制勤務により欠食や夜間摂食者の増加がみられ、欠食群で体脂肪率やBMIが高かった等の結果から夜食で欠食を補う方が良い可能性にも言及され、大変興味深かった。

濃密な発表にフロアからの質問も活発で、大変な盛会となった。立ち見でご参加くださった方にはお詫びを申し上げるとともに、ご援助を賜った多くの方々に、心より御礼申し上げます。



関東産業医部会報告

西埜植規秀
(にしのをえ産業医事務所)

関東産業医部会では、5月に東京で開催された第90回日本産業衛生学会の準備、企画運営に取り組んだ。

産業医部会が担当する産業医フォーラムは、5月13日に「発達障害と就労」をテーマに開催された。講師には現場での経験豊富な、あつぎ心療クリニックの福田真也先生をお招きし、事例を用いて、分かりやすく発達障害の特性や職場での支援に重点を置いたお話をいただいた。発達障害への対応については関心が高く、立ち見が出るほどの盛況となり、講演後には活発な質疑が行われた。参加者には、「自閉症スペクトラムの特性がある参加者へのリワーク支援の手引き」(*)が配布され、さらに理解を深められたように思う。

※: <http://utsu-rework.org/info/2017spectrum.pdf>

近年、労働者の健康確保対策の重要性が増しているが、それに伴い産業医に要求される業務内容、スキル、責任は増大の一途をたどっている。そのような状況の中、関東産業医部会では、本年度も新しい情報をキャッチし、現場で対応できる知識、スキルを学べる実践的な研修を企画していきたいと考えている。詳細については日本産業衛生学会産業医部会HP(<http://www.on-top.net/ibukai/>)や日本産業衛生学会関東地方会HP(<http://jsokant.umin.jp/>)に掲載予定であるので、適宜ご確認いただければ幸いである。



関東産業看護部会報告



古川晴子
(東京海上日動火災保険)

2017 年 5 月 12 日(金)、産業看護部会自由集会では「新たな産業保健の在り方と産業看護職の法制化と活用」と題して、河野啓子元部

会長と五十嵐千代部会長による講演とディスカッションを行った。河野先生からは、産業保健の転機となるローベンスレポートや ILO161 号条約の重要性と国際動向、日本の産業看護職の位置づけと課題についてお話いただき、五十嵐先生からは産業看護職の法制化や活用に向け、両先生が関係機関に積極的に働きかけをされていることや、今後の産業看護職の目指す姿について明確にお話いただいた。河野先生、五十嵐先生のご尽力のもと、産業看護職の近未来図が描かれていることに、フロアの看護職全員が勇気と希望を抱くことができた。



下山満理(富士通)

2017 年 5 月 13 日(土)、産業看護部会フォーラムでは、「戦略的な実践事例から考える一会社や組織から求められる産業看護職像」と題し、戦略的に産業保健活動に取り

組む 3 名の看護職の実践報告と、企業側の立場から企業が求める産業看護職像について発表いただいた。参加者は 220 名と盛況で、発表では長年の産業保健活動を公的に評価に繋げた事例、健診事後措置等で e-ラーニングを活用し、PDCA を回しながら集団支援を実施している事例、看護職のマンパワーの少ない中、社員の特性に合わせた産業保健活動の事例、最後に企業の立場から、産業看護職へ期待することについてお話いただいた。後半のディスカッションでは質疑応答も活発で、実践に役立つ内容となった。



関東産業衛生技術部会報告



津田洋子
(インターリスク総研)

2017 年 2 月 13 日(月)、全電通埼玉会館あけぼのビルにおいて、第 41 回関東産業衛生技術部会の研修会を「衛生管理者

の交流研究会」として、埼玉産業保健総合支援センターと共同で開催した。内容は、メンタルヘルス、化学物質のリスクアセスメント、安全配慮義務について行った。参加者は 40 名であった。

まず、「メンタルヘルスに関して困ったこと」について、復職時の職場対応、ラインケア、産業医面談等に関して、参加者から課題が挙げられ、星野ゆかり講師(埼玉産業保健総合支援センター)のファシリテートで活発な議論が行われた。次に「化学物質のリスクアセスメント」では、澤田 等講師(本田技研工業)から企業の立場からのリスクアセスメント実施体制や従業員教育・啓発活動を考慮した事例、泉 貢講師(埼玉県健康づくり事業団)から作業環境測定機関の立場から定期的な測定結果を活用した事例、が報告された。吉川幸雄講師(順天堂大学医学部)からは、教育研究機関における少量多品種使用の事例について解説があった。坂本雄二講師(埼玉産業保健総合支援センター)からは、安全配慮義務のルーツや意義、衛生管理者の果たすべき責任等の説明があった。

最後に、對木博一氏(アール)より総括があり、衛生管理者の業務内容は多岐にわたり、自分の専門分野だけではなく、企業内産業保健スタッフのコーディネート役として皆をまとめる姿勢が大切であると述べられ、盛会の中終了した。



関東産業歯科保健部会報告



品田佳世子(東京医歯大)

2017 年 2 月 4 日(土)東京医科歯科大学歯学部特別講堂にて、シンポジウム「職域における歯科口腔保健の課題と今後の展望」～厚生労働省 労災疾病臨床研究の結果から～・平成 28 年度産業歯科保健部会後期研修会・関東産業歯科保健部会研修会が合同開催され、参加者は 61 名であった。座長の川口陽子先生(東医歯大)および加藤 元先生(産業歯科保健部会長、日本 IBM)から、平成 26 年 6 月に衆議院の厚生労働委員会において附帯決議として労働者の口腔の健康を保持することの重要性、職域における歯科保健対策について検討を行う必要性が示されたことが報告された。それを受けた、労災疾病臨床研究として「歯科口腔保健と作業関連疾患との関連に関する実証研究」実施経緯が説明された後に、6 名の演者より研究結果が発表され、質疑応答がなされた。



5 月 11 日(木)～13 日(土)に開催された第 90 回日本産業衛生学会のシンポジウム 5「交代制勤務者における食・健康の問題点とその支援」(関東地方会 4 部会・産業栄養研究会合同企画)において、当部会から「夜間勤務を含むシフト勤務者と日中勤務者での口腔内の状態及び口腔保健行動の比較」を石塚洋一先生(東歯大)が講演した。また公募シンポジウム 10「働く女性の健康支援ー予防医学を展望するー」(就労女性健康研究会・産業歯科保健部会合同)では「女性のライフステージの視点からみた歯科保健」を品田佳世子(東医歯大)、教育講演「口から見えてくる健康格差」では加藤 元先生(日本 IBM)、産業歯科保健フォーラム・平成 29 年度前期研修会「がんと就労 口から支援する」では上野尚雄先生(国立がん研究センター)と島谷和恵先生(住友商事)が講演され、多くの参加者と活発な質疑応答がなされた。



シンポジウム5の風景

おめでとうございます

日本産業衛生学会

第 8 回 GP 奨励賞

三浦淳子先生、森 まき子先生、
村山亜矢子先生、杉山公太先生

(コニカミノルタ 人事部人事企画 G 健康管理 G)

須郷真奈美先生、原 耶苗先生、金澤和美先生、
磯貝聡子先生、松島真浩先生、田中美樹先生、
田中希実子先生、菊池 悟先生、小峰慎吾先生

(NTT 東日本 健康管理センタ)

第 1 回生涯教育委員会若手論文賞

江口 尚 先生

(北里大学公衆衛生学)

平成 29 年度 安全衛生に係る優良事業場、
団体又は功労者に対する厚生労働大臣表彰

功労賞

中明賢二 先生

(麻布大学名誉教授)

功績賞

小林敏郎 先生

(小林医院理事長)

柴田輝明 先生

(埼玉県医師会産業保健委員会委員)

深沢規夫 先生

(千葉県医師会理事)

安全衛生推進賞

能勢俊一 先生

(神奈川産業保健総合支援センター 産業保健相談員)

関東地方会ニュースの電子化について

「関東地方会ニュース」は本号より、PDF形式の電子版となりました。バックナンバーはPDF形式で関東地方会ホームページ(<http://jsohkant.umin.jp/>)に公開されています。

発刊案内はホームページと電子メールで行いますので、ご理解をお願い致します。学会ホームページ(<http://www.sanei.or.jp/>)からご自分の登録情報を確認し、確実に受信が可能なメールアドレスをご登録下さい。

地方会ニュースについてのご意見・ご提案は事務局(jsoh_kanto@jikei.ac.jp)まで。

研究室紹介

国際医療福祉大学

小田原保健医療学部看護学科

教授 荒木田美香子



国際医療福祉大学は平成7年に栃木県大田原市に開学した。国際医療福祉大学の中に看護学科は4学科(大田原、小田原、福岡、成田)あり、荒木田が所属する小田原保健医療学部は平成18年に開学した。大学院は東京青山にメインキャンパスがあり、遠隔放送システムを使ってこれらのキャンパスをつないで、講義や研究指導を行うという複雑な形態をとっている。本領域は現在教員が6名(教授1、准教授2、講師2、助教1)、大学院生が21名という大所帯である。院生の研究領域は幅広く、企業の健康増進、病院看護師の働き方、学校保健、母子保健、中高年の健康課題を対象としている。ゼミではそれぞれの研究の進捗状況を報告し、仲間からアドバイスを受けるが、それだけでも公衆衛生に関する非常に多くの情報が得られるというのが特徴である。院生のほとんどはフルタイムの仕事を持っているので、ゼミは日曜日に、研究指導は夜間、またはスカイプを使用するなど、互いの貴重な時間を有効に活用するように工夫している。そのかいがあつて、毎年数名が博士の学位を取得している。

荒木田自身は産業保健、学校保健、母子保健を主たる研究領域としているが、今年度の大きなテーマの一つは厚生労働科学研究として展開している地域職域連携に関する研究である。

また、大学院としては平成30年度開講を目指し、修士課程での保健師国家試験受験資格を取得できるコースを申請中であり、大学院生の研究領域としてはますます広がる予感がある。



(前列中央が筆者)

研究室紹介

日本歯科大学

生命歯学部衛生学

教授 福田雅臣



本学は、公立私立歯科医学校指定規則で認められたわが国初の歯科医学校として東京都千代田区に創立され、今年で創立111年を迎えた。そして本講座は約100年前、日本歯科医学専門学校衛生学講座として始まったことが記録に残っている。戦中戦後の混乱期、常勤教授が不在だった時期もあったが、戦後、丹羽輝夫教授により再興され、その後、鯉沼茆吾先生、辻 達彦先生と著名な教授が歴任された。私は大学院時代、幸いにも辻教授の下で衛生学・公衆衛生学を学ぶことが出来た。現在、研究室は本学大学院研究科長である八重垣 健主任教授を中心に教授2名、准教授1名、講師2名、大学院生2名の構成となっている。

学部学生教育では、衛生学・公衆衛生学、口腔衛生学(口腔保健学)、医事法制と幅広い分野を担当しており、この中で、産業保健関連の教育を行っている。研究分野は、ヒト歯髄幹細胞からの臓器分化と再生医療、産業衛生にも関連する硫化水素の発癌性・歯周病原性および細胞分化誘導に関する研究、口臭治療法開発に関する研究、高齢者・小児の口腔機能に関する研究、学校保健研究、小児の生活習慣病予防のためのヘルスプロモーションと、細胞レベルの研究から歯科疫学研究と幅広い分野の研究を行っている。そして、産業保健分野の研究としては、従来型の疾病発見型の歯科健診から、事業所歯科健診への応用を見据えたスクリーニング機能を有した問題発見型歯科健診を開発し、現在いくつかの歯科医師会と連携して、事業所歯科健診のあり方について研究を行っているところである。



(前列右から二人目が筆者)

部会フリーページ

産業衛生技術部会の活動報告と案内 -第 90 回日本産業衛生学会での活動-

日本産業衛生学会産業衛生技術部会企画委員 山野優子(昭和大学)

産業衛生技術部会としては、本学会期間中にシンポジウム・フォーラム・自由集会として5つのテーマを企画した。全て、聴衆は満員となり立ち見まで出るほどで盛会であった。ご参加いただいた方に感謝申し上げます。以下に、各テーマについて簡単に報告する。

① 化学物質のリスクアセスメントのステップアップに向けて-実践事例を踏まえた成果と今後の課題-

SDS交付対象物質に対するリスクアセスメント(RA)実施の義務化からほぼ1年が経ち、行政からの法制度解説や大企業及び中小企業からの実践事例報告をもとに、これからを見据えた議論が行われ、200名の会場に立ち見も多く盛況であった。

厚労省からはRAの周知啓発や取り組み支援に努めること、企業の衛生管理者からはRAの専門家育成の必要性など述べられた。RAのために個人曝露測定を行うと、作業環境測定よりも労働者の関心が高いことも紹介された一方、化学物質によるリスクへの理解不足や、RAの実施義務を免れようとする例なども議論され、今後のRAの普及発展への参考となるシンポジウムであった。



② 3DのVDT作業の影響と対策 -職場におけるシースルーHMDや立体映像

宮尾 克先生(女子栄養大学)を講師に迎えて開催し、参加者は約40名であった。前半は3D映像の視差範囲の国内規制についてデータを示しながら問題点を指摘し、リスクとベネフィットを考慮した上で安全かつ魅力的なコンテンツを制作していくことの重要性についての講演であった。後半はヘッドマウントディスプレイ(HMD)の作業支援への利用について事例を交えて紹介された。今後、作業現場に導入される可能性の高い技術であり、利用する際の注意点などについても活発な意見交換があった。



③ 検知管を用いた簡易リスクアセスメントガイドブックについて

自由集会として企画され、約65名の参加者があった。

平成28年6月1日より化学物質のRAが義務化されたことを受け、専門家不在でも実施できる簡便な手法を普及することにより、自主的なRAを促進するために「検知管を用いた化学物質のリスクアセスメントガイドブック」が刊

行された。簡易リスクアセスメント手法検討委員会で委員長を務めた橋本晴男先生(東京工業大学)から検知管を用いたリスク



評価法の詳細、RA手法としての検知管法の位置づけ等についての講演があり、その後の質疑応答では、検知管法が簡便法であるが故の使用上の注意点や、検知管法をどのように普及するか等について活発な議論が交わされた。

④ 多店舗展開している小売業で頻発する転倒災害を防ぐためには

産業衛生技術フォーラムとして企画され、約50名の参加者であった。河津雄一郎先生(平和堂)、今井義人先生(東京労働局)、大西明宏先生(安衛研)の講演の後、参加者との活発なディスカッションがなされた。転倒防止には高耐滑性の作業靴や床材の整備、危険場所の見える化や防止対策映像教材など、作業理解へのサポートが重要である点、経営者や産業医も含めた組織対策が必要であることなど、大変実践的な議論がかわされた。

⑤ 化学物質の経皮吸収ばく露と防護

関東産業衛生技術部会として企画され、田中茂先生(十文字学園女子大院)からオルトトルイジン曝露における膀胱癌発生で問題となった経皮吸収曝露についてと手袋の安全性についての講演があり、その後パネラーとして山口広美氏(日本化学工業協会)、上村達也氏(化成品工業協会)、鈴木一行氏(テクノヒル株式会社)の3名が参加して総合討論を行なった。会場はほぼ満席となる約90名の参加者があった。

上記事故がきっかけとなり、安衛法の改正が行なわれ、オルトトルイジンは特定化学物質の第2類物質に追加され、さらに、化学防護手袋の選択・使用等について、「事業者は、衛生管理者、作業主任者等の労働衛生に関する知識及び経験を有する者のうちから、作業場ごとに化学防護手袋を管理する保護具着用管理責任者を指名し、化学防護手袋の適正な選択、着用及び取扱方法について労働者に対し必要な指導を行わせるとともに、化学防護手袋の適正な保守管理に当たらせる」など新しく通達があった内容についての報告もなされ



た。また、実際に手袋の多種の素材における有機溶剤に対する劣化試験および透過試験結果の比較についての説明があり、化学防護手袋の必要性の理解の促進と、具体的な選定法などに対しても非常にためになった集会となった。

日本作業環境測定協会との協力について

産業衛生技術の高度な専門家(海外のオキュペイショナルハイジニストまたはインダストリアルハイジニストに相当する者)の育成と資格認定に関して、日本作業環境測定協会の「認定オキュペイショナルハイジニスト資格制度」があり、正式な国際認証を受けている。この制度を利用し資格を取得すれば、学会・部会員の専門性をより高めることに貢献することとなり、またわが国における同資格制度を通じた専門家の広い育成に寄与することになると確信している。技術部会では、この制度がわが国において極めて重要であると公に認識し、これの支持、協力を検討することを、部会幹事会および総会にて承認した。

(詳細は産業衛生技術部会ホームページ参照

<http://jsoh-ohe.umin.jp/>)

通達・行政ニュース

山本健也(東京大)

三酸化二アンチモンの特定化学物質への追加

「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令(平成29年3月29日政令第60号)」と「特定化学物質障害予防規則等の一部を改正する省令(平成29年4月27日厚生労働省令第60号)」が公布され、化学物質による労働者の健康障害防止に関するリスク評価の結果に基づき、発がんのおそれのある物質として三酸化二アンチモンが特定化学物質(管理第2類物質)に追加された(平成29年6月1日施行)。なお、除外規定のある対象業務は「樹脂等により固形化された物を取り扱う業務」である。

産業医制度等に係る見直し

「産業医制度の在り方に関する検討会」報告書に基づき、「労働安全衛生規則等の一部を改正する省令(平成29年3月29日厚生労働省令第29号)」が公布(同年6月1日に施行)され、また「労働安全衛生規則等の一部を改正する省令等の施行について(基発0331第68号)」が通達された。制度見直しの内容として、「1.健康診断の結果に基づく医師等からの意見聴取に必要となる情報の医師等への提供」は、健康診断結果に基づき医師等が就業上の措置等に関する意見具申を行う際に、労働者の業務に関する情報について医師等が求めた際にはそれを提供する義務を事業者課したもので、一般健康診断のみならず特殊健康診断も同様となっている。「2.長時間労働者に関する情報の産業医への提供」は、産業医側の求めの有無にかかわらず事業者が義務を課したもので、「事業者は、毎月1回以上、一定の期日を定めて、休憩時間を除き1週間当たり40時間を超えて労働させた場合におけるその超えた時間の算定を行ったときは、速やかに、その超えた時間が1月当たり100時間を超えた労働者の氏名及び当該労働者に係る超えた時間に関する情報を産業医に提供しなければならない」とされた。「3.産業医の定期巡視の頻度」では、従来少なくとも毎月1回行うこととされていた産業医による作業場等の巡視を、少なくとも2月に1回とすることを可能とする条件が定められた。その条件とは「事業者から毎月1回以上産業医に一定の情報(=長時間労働者に対する面接指導の基準に該当する労働者数およびその労働時間数、衛生管理者の職場巡視の結果、衛生委員会等で調査審議された事項)が提供されている場合であって、

事業者の同意がある場合」とされている。なお、この「事業者の同意」は「産業医の意見に基づいて、衛生委員会又は安全衛生委員会において調査審議を行った結果を踏まえて行うこと」とされており、頻度変更の際には所定のプロセスを踏む必要があることに留意されたい。

化学物質のリスクアセスメント等対象物質の改正

平成28年度化学物質のリスク評価に係る企画検討会報告書を踏まえ、労働安全衛生法第57条関係(ラベル表示、SDSの交付、リスクアセスメントの実施)の対象物質にアスファルト等の10物質を追加、およびシリカのうち非結晶質シリカを対象から除外する政省令改正が平成29年8月3日に公布され(政令第218号、厚生労働省令第89号)、関連通達が発出された(基発0803第6号)。シリカについては公布日より、その他は平成30年7月1日から施行される。

その他

<「働き方改革実行計画を踏まえた今後の産業医・産業保健機能の強化について(労働政策審議会建議)」の公表>

首相官邸主導の「働き方改革実現会議」の成果物として今年3月に決定した「働き方改革実行計画」での「7.(3)労働者の健康確保のための産業医・産業保健機能の強化」において、治療と仕事の両立支援や過重労働等のリスクに対する産業保健管理の強化という観点と共に、産業保健職が活動をしやすい環境の整備などが謳われていること等を踏まえ、本建議では就業上の措置の適正実施や勧告権の尊重、事業場内での健康情報取り扱いの適正化、産業医の独立性・中立性の確保、必要な情報提供体制の構築、等について言及されている。

<ストレスチェックの結果について>

平成28年度のストレスチェック制度の実施状況が、平成29年7月26日に労働基準局の「報道発表資料」にアップロードされた。ストレスチェックを実施した事業場は実施義務対象事業場の82.9%、実施事業場での労働者受検率は78.0%、医師による面接指導を受けた労働者の割合は0.6%、集団分析をした事業場の割合は78.3%であった。

<事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン関係>

本ガイドラインの参考資料に「脳卒中」と「肝疾患」に関する留意事項が追加された(平成29年3月1日)。

理事会報告より

柳澤裕之(慈恵医大)

平成29年度第1回(2017年4月15日開催)

審議事項

1. 社会医学系専門医制度の開始に当たり、日本産業衛生学会専門医制度に関する規程修正案が報告され承認された。
2. 研究会改革に伴い、「よくある質問」に対するQ&Aが承認された。

報告事項

1. 第90回日本産業衛生学会(東京)、第91回日本産業衛生学会(熊本)準備状況が報告された。
2. 第26回全国協議会(京都)の会計報告が行われ承認された。
3. 第27回全国協議会(高知)、第28回全国協議会(東京)準備状況が報告された。
4. 社会医学系専門医協会理事会に日本産業衛生学会から大久保靖司理事が財務担当として参加することになった。
5. 編集委員会から2016年優秀論文賞、2016年優秀査読者賞の報告があった。
6. 生涯教育委員会から第8回ベストGP奨励賞、第1回及び第2回若手論文賞の報告があった。
7. 産業保健看護専門家制度委員会から、第11回委員会の開催と第2回登録者認定試験について報告された。
8. 今後の役員選挙制度に関する検討小委員会設置の報告があった。
9. 平成29年4月4日現在で正会員数は7,694人であり、昨年度よりも54人増加した。

平成29年度臨時(2017年5月11日開催)

審議事項

1. 理事長については、理事全員による無記名の投票により決定し、業務執行理事については、理事長が推薦し、候補者に対しての信任投票により決定することが承認された。
2. 理事全員による無記名投票の結果、新理事長は川上憲人理事に決定した。
3. 川上理事長より、副理事長:森 晃爾、総務担当理事:大久保靖司、武林 亨、経理担当理事:宮本俊明、住徳松子の各理事が推薦され、信任された。
4. 1-プロモプロパンを含む洗浄剤の国内製造販売事業者からの損害賠償請求等の訴訟について、弁護士と委任契約を締結した。

5. 役員選挙制度検討小委員会の担当理事として圓藤理事、野見山理事が指名され、承認された。

平成29年度第2回(2017年7月23日開催)

審議事項

1. 新体制に当たり、学会のビジョンと役員の役割分担が提案された。
2. 利益相反に関する委員会及び生涯教育委員会の新委員、産業衛生技術部会幹事が提案され承認された。
3. 歯科保健部会幹事の追加が提案され承認された。
4. 政策法制度委員会から「中小企業・小規模事業所で働く人々の健康と安全を守るために-行政、関係各機関、各専門職に向けての提言」が提示され意見交換が行われた。
5. 研究会の会計について、取り決めと申し合わせが提案され承認された。

報告事項

1. 第90回日本産業衛生学会の参加者数が報告された。
2. 平成29年度総会議事録が承認された。
3. 第91回日本産業衛生学会、第27回全国協議会、第28回全国協議会の準備状況が報告された。
4. 専門医制度委員会から指導医登録者数411名、専門医登録者数510名、専攻医登録者数254名との報告があった。
5. 産業保健看護専門家制度委員会から委員会開催日、専門家認定試験日、登録状況が報告された。
6. 役員選挙制度検討小委員会から、中央選挙管理委員会委員は各地方会から1名選出し、9名で構成することが報告された。また、委員の資格は、地方会選挙管理委員長、あるいは経験者で理事職にない代議員が相応しい旨の報告があった。

幹事会報告より

与五沢真吾(慈恵医大)

平成28年度第4回(2017年2月18日開催)

1. 産業保健における復職ガイダンスの草案をHP上に公開し、パブリックコメントを募集することとなった。
2. マイナンバー制度対応の一部手順変更・謝金の取扱について、説明があった。
3. 照屋浩司幹事および笠原悦夫幹事の退任挨拶があり、岡本博照氏(杏林大)、神奈川芳行氏(JR東日本)の新幹事への就任が承認された。また昨夏亡くなられた小川利隆幹事の後任に石井 徹氏(JR東

日本)の就任が承認された。

4. 第273回例会は、2016年5月7日(土)に東京大学で開催され、167名の参加があったと報告があった。
5. 関東地方会選出理事候補者選挙結果について、照屋浩司選挙管理委員長より報告があった。
6. 第90回日本産業衛生学会の準備進捗状況が須賀万智統括委員長および照屋浩司プログラム部門長より報告された。
7. 第276回例会について、当番幹事の中野愛子幹事より講演内容の説明があった。
8. 事務局より、第277回例会(第90回日本産業衛生学会:シンポジウム5)および平成29年度日本産業衛生学会関東地方会総会、平成29年度第1回幹事会(拡大)の開催について説明があった。
9. 各部会より活動報告があった。
10. 関東地方会ニュースの電子化について説明があった。35号の発刊にあたり、メールアドレスが登録されている会員および関係者にメールを送信したことが報告された。
11. 柳澤裕之地方会長より理事会報告があった。

平成29年度第1回(2017年5月10日開催)

1. 新たに就任された岡本博照幹事、神奈川芳行幹事、石井 徹幹事より挨拶があった。また香山不二雄幹事、小峰慎吾幹事の退任挨拶があり、後任に市原佐保子氏(自治医大)、山中 敦氏(NTT東日本)の就任、江口 尚氏(北里大)の就任が承認された。また下光輝一監事が退任され、角田 透氏(了徳寺大)が就任することになった。
2. 平成28年度事業報告・決算および会計監査、平成29年度事業計画および予算案が報告され、それぞれ承認された。
3. 照屋浩司選挙管理委員長より、平成28年関東地方会長・代議員選挙および関東地方会選出理事候補者選挙について総括があった。
4. 関東地方会ニュースの電子化について説明があり、学会本部にメールアドレスが登録されている2,993名にメールを送信したが150件近くがエラーとなっており、送受信できるメールアドレスの登録と未登録会員への電子メールアドレス登録を呼びかけるよう、事務局より要請があった。
5. 第277回例会の内容について説明があった。
6. 第278回例会(一泊)および第61回見学会、第279回例会、第280回例会の計画及び進捗状況が報告された。
7. 各部会の活動報告があった。
8. 柳澤裕之地方会長より理事会報告があった。

9. 中野愛子幹事より、第28回日本産業衛生学会全国協議会は、2018年9月14日(金)～16日(日)に、東京工科大蒲田キャンパスで行われるとの報告があった。
10. 平成29年度関東地方会役員、ニュース編集委員、が承認された。

地方会総会報告より

与五沢真吾(慈恵医大)

2017年5月12日開催

1. 柳澤裕之関東地方会長が議長に選出された。
2. 平成28年度事業報告が事務局より報告され、承認された。
3. 平成28年度決算報告が柳澤地方会長より報告され、藤田雄三監事より報告された監査結果とあわせ、承認された。
4. 平成29年度事業計画案、および予算案について、事務局より報告され、承認された(関東地方会HP(<http://jsokant.umin.jp/report.html>)に掲載)。
5. 事務局より、会員に対して学会本部への送受信可能な電子メールアドレス登録が呼びかけられた。
6. 平成29年度関東地方会における地方会選出理事、幹事、監事、ニュース編集委員について事務局より報告され、承認された。

学 会 等 開 催 予 定

第278回関東地方会例会(一泊)・第61回見学会
日時:2017年9月15日(金)・16日(土)
会場:ホテルメトロポリタン高崎(高崎市)
企画運営委員長・当番幹事:小山 洋(群馬大)

第279回関東地方会例会
日時:2017年11月18日(土) 12:50-17:30
会場:日本医科大学医学部講堂(文京区)
当番幹事:稲垣弘文(日本医大)

第280回関東地方会例会
日時:2018年2月10日(土)
会場:十文字学園女子大学(新座市)
当番幹事:田中 茂(十文字学園女子大)

第27回日本産業衛生学会全国協議会
日時:2017年11月23日(木)～25日(土)
会場:高知県立県民文化ホール(高知市)
運営委員長:菅沼成文(高知大)

第91回日本産業衛生学会
日時:2018年5月16日(水)～19日(土)
会場:市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市民

会館)・熊本市国際交流会館・くまもと県民交流会館
パレア・鶴屋ホール (熊本市)
学会長:加藤貴彦 (熊本市)
<http://www.convention-w.jp/jsph91/>

第67回労働衛生史研究会
日時:2017年9月30日(土)13:00-17:00
会場:昭和大学医学部1号館6階会議室(品川区)
世話人:山野優子(昭和大学)
<https://www.sanei.or.jp/images/contents/16/roudouiseishi.pdf>

日本産業看護学会第6回学術集会
日時:2017年11月4日(土)・5日(日)
会場:品川区総合区民会館きゅりあん(品川区)
学術集会長:佐々木美奈子(東京医療保健大学医療保健学部看護学科 教授)、田中希実子(NTT東日本健康管理センタ保健支援科 看護部長)
<http://square.umin.ac.jp/jaohn2017/index.html>

第25回日本産業ストレス学会
日時:2017年12月8日(金)・9日(土)
会場:静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ(静岡市)
会長:巽 あさみ(浜松医科大学医学部看護学科地域看護学講座)、西 賢一郎(ジヤトコ株式会社安全健康管理部 統括産業医)
<http://www.procomu.jp/jajsr2017/index.html>

第65回日本職業・災害医学会学術大会
日時:2017年11月25日(土)・26日(日)
会場:北九州国際会議場(北九州市)
会長:尾辻 豊(産業医科大学 第2内科学)
<http://www2.convention.co.jp/jsomt65/>

第76回日本公衆衛生学会
日時:2017年10月31日(火)~11月2日(木)
会場:宝山ホール・かごしま県民交流センター・鹿児島県歴史資料センター黎明館(鹿児島市)
学会長:秋葉澄伯(鹿児島大学名誉教授)
<http://www.c-linkage.co.jp/jsph76/index.htm>

第88回日本衛生学会学術総会
日時:2018年3月22日(木)~24日(土)
会場:東京工科大学蒲田キャンパス(大田区)
会長:横山和仁(順天堂大学医学部衛生学講座)
<http://www.jsh88.umin.ne.jp/overview.html>

49th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference (APACPH)
日時:2017年8月17日(木)~20日(日)
会場:延世大学校International Campus(ソウル市)
Organizing Chair: Jaehoon Roh (Graduate School of Public Health Yonsei University)
<http://apacph2017.com/>

第23回ヒ素シンポジウム
日時:2017年12月7日(木)・8日(金)
会場:つくばイノベーションプラザ(つくば市)
大会長:熊谷嘉人(筑波大学医学医療系)
http://www.md.tsukuba.ac.jp/community-med/environmental_medicine/As-sympo2017/index.html

32nd International Congress on Occupational Health
日時:2018年4月29日(日)~5月4日(金)
会場:The Convention Centre Dublin (Dublin, Ireland)
大会長: Martin Hogan (Faculty of occupational medicine, royal college of physicians of Ireland)
<http://icoh2018.org/wp/>

※掲載を希望される場合は事務局までご連絡ください。

編集後記

次男が透明の飼育ケースを手に戻ってきました。何やら黒くて細長いものが中でじっとしています。聞くと「塾の先生からイモリを貰った。沖縄にいる種類みたい。」と。さて困りました。イモリを飼ったことなどなく、知識も「あれ両生類だったよね」というぐらい。ネットや本で調べると、名称はシリケンイモリ、沖縄や奄美に生息する種ようです。寿命は10年以上、しかも準絶滅危惧に指定(環境省)されているという記載、これはなかなか責任重大です。幸い飼育は比較的容易とのことで、ガラス越しに指を動かすとのっすり顔を近づけ、気分次第で乾燥イモミズをパクパク、それ以外は水槽の中でのんびり暮らしています。

さて地方会ニュースは今号から電子版のみでお送りいたします。現場で起こるさまざまな事態や変化への対応の道標として、これからも息長くご愛読いただければ幸いです。(山瀬)

もう長いこと「行政通達ニュース」を担当させていただいております。前任の中災防の工藤先生から引き継いだ頃と比べると、近年は厚労省や安全衛生情報センターのHPから容易に行政情報にアクセスできるので、本ニュースでは単に規則として決まった事を紹介するだけではなく、その本質的な面を僅かではありますがなるべく表現できるように工夫を凝らしています。しかしあまり逸脱したりフライングをして掲載すると、蓋を開けた時に内容が違っていたり、法律の公布が遅れたりするので、慎重にならざるを得ない紙面を何卒ご容赦ください。完全電子化となった地方会ニュースにおいて「行政通達ニュース」では電子化を意識した工夫はあまりしていませんが、「送られてくる紙面」から「見にくい紙面」となった今後、このコーナーの表現にも変化が必要になるかもしれません。担当者も誰か代わっていただくと良いのですが・・・。(山本)

編集委員名簿

浅沼雄二、稲垣弘文、◎大久保靖司、久保恵子、澁谷智明、谷山佳津子、照屋浩司、中谷 敦、原 美佳子、林 知子、廣田幸子、三浦善憲、宮本俊明、山瀬 一、山野優子、山本健也、○高木美保、○吉岡 亘、○与五沢真吾

◎編集委員長 ○事務局 (50 音順)